

おおとうぞくかもめの内臓臓器の形態観察

雨宮 淳 三*

MORPHOLOGICAL NOTES OF THE INTERNAL ORGANS OF SOUTH-POLAR SKUA

Junzo AMEMIYA*

Abstract

As a result of the morphological observation on the internal organs of the south pole skua as compared with domestic fowl, the following differences have been recognized.

1) The internal face of Proventriculus reveals some lengthwise wrinkles, and its volume is comparatively small. 2) M. lateralis is thin and small in shape. 3) Intes-

tinum caecum is not so grown as domestic fowl. 4) The intestine of the skua is about three times the length of the body, while that of domestic fowl is about five or six times.

And these constructions are recognized as one of the special features of carnivorous birds.

南極地域にて捕獲されたおおとうぞくかもめ (South Polar Skua (*Catharacta macrorhynchos*)) の主要臓器の形態をにわとりと比較観察したので略記する。例数少なく簡単な記載にとどめた。

肝臓 (Hepar) にわとりと同様に、深い切痕で左右にわかれ、右葉が大きい。にわとりと異なって左葉に切痕がない。

大きさ

右葉	長径	77mm	最大幅	42mm
左葉	長径	60mm	最大幅	35mm
重量	51g	(にわとり平均 35g)		

心臓 (Cor) 構造上相違は認められない。

長径 (Apex まで) 42mm, 冠状溝上における最大幅 28mm, 重量 15g.

にわとりに比べ大形。

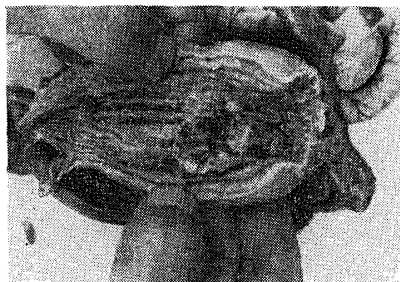
嗦嚢 (Crop) 検体が不完全であったが少なくともにわとりのものより大きく、発達しているようにみられた。

腺胃 (Proventriculus)

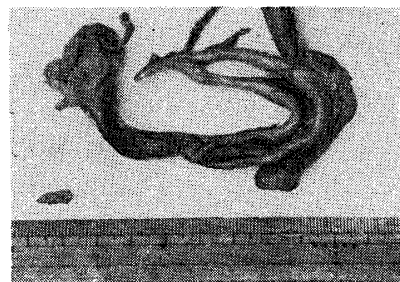
長さ 31mm, 幅 15mm.

にわとりとの相違著しく、粘膜は縦の皺襞をなしている。口側の方の皺襞は細く数が多い

* 鹿児島大学農学部, 第5次南極地域観測隊員. Faculty of Agriculture, Kagoshima University. Member of the Japanese Antarctic Research Expedition, 1960-61.



第 1 図 腺胃と筋胃
Fig. 1. Proventriculus and ventriculus.



第 2 図 盲腸部
Fig. 2. Intestinum caecum.

(16~18 個). 尾側は数が減って太くなっている (8 個).

筋胃 (Ventriculus)

長さ 39mm, 幅 27mm.

筋 (*M. lateralis*) はにわとりに比べ発達しておらず, うすく, 又形がにわとりと異なり口側から尾側にかけての変化が少ない. 矢状面における筋 (*M. lateralis*) の最大厚さは 10mm (にわとりの場合はきわめて厚い). 胃の構造の相違は餌の性質によるものと思われる.

小腸 (*Intestinum tenue*) 長さ 102cm で, 十二指腸と残りの空・回腸 (*Intestinum jejunioilium*) に区別される. にわとりのその約 180cm に比べ非常に短い.

十二指腸 (*Intestinum duodenum*) は, にわとりと同じく腺胃と筋胃の接続部に近く筋胃から始まる. 下行部の長さは 70mm. 上行部 115mm. 太さは周径約 35mm. にわとり (約 25mm) に比べ太くなっている.

大腸 (*Intestinum crassum*) 盲腸 (*Intestinum caecum*) は 92mm, 86mm の二本でにわとり (120~250mm) に比べ短い. にわとりに比べ頸管部が著しく短く大部分が膨大部であるが, 膨大部とはいえにわとりの頸管部と大体同じ太さであり, 全体的的にきわめて発達していない.

結腸・直腸 (*Intestinum colon, Intestinum rectum*) は両者の境界は全く不明で, 長さ 65mm. にわとり (約 120mm) に比べ半分しかない.

腸は十二指腸のところで最も太く, 直径 10mm. 次第に細くなり空・回腸末端部では 4mm, 大腸部はやや太く 7mm, 盲腸の最大部で 5mm を示した.

膵臓 (*Pancreas*) 十二指腸の間にあり, 長さ 104mm. およそ 3 葉 (小さいものを数えれば 5 葉位) にわかれる.

腎臓 (*Ren*) 3 葉にわかれ, 前葉が最大, 中葉が最小, 重量は合計 17g.

肺 (*Pulmo*) 左右大体同形, にわとりの肺と形は近似している. 最大高 43mm. 最大幅 28mm. 厚さ 7mm.

卵巣 (Ovarium) きわめて小さい。卵形は粟粒大より最大径 2mm.

およそ以上であるが、にわとりに比し胃、盲腸の形態に著明な差違が認められた。また腸管は短く、他臓器に対するバランスの相違がめだった。飛翔鳥の故であろう。

にわとりに比べ、おおとうぞくかもめは胃の筋が発達していないこと、盲腸が発達していないこと、十二指腸が太いが短い、また腸管全体が短いことなどを示す。これ等はにわとりよりも肉食性が強いことをうかがわしめる。

1 例ではっきりしないが、肝臓が発達しているのは、そのエネルギー貯蔵能力が多いと見られ、採餌の条件とあわせ考えられよう。

なお、胃の皺襞にはさまっていたりして、胃内に甲殻類の脚等の断片と思われるものなどが存在していたが、これは調査中である。

文 献

- 1) S. Sisson: *Anatomy of the Domestic Animals* (1956).
- 2) 加藤嘉太郎: *家畜比較解剖図説 (上)* (1957).

(1961年8月23日受理)